

[課題演習概要]

生徒の興味・関心を高めるビジュアルを意識した保健体育科学習指導 —保健の学習指導に ICT 機器を活用して—

中 島 久 維
Hisayuki NAKASHIMA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：ICT 機器，保健体育，興味・関心

1 研究の目的

文部科学省（HP より）は，高校生の現状として，「学校生活への満足度や学習意欲が中学校段階に比べて低下しており，学習意欲を喚起し，可能性及び能力を最大限に伸長するためのものへと転換することが急務になっている」と指摘している。高校の学習は中学校と比べ発展的なものになることから，学習意欲が低下することは大いに考えられる。その為，学習意欲を喚起するために，興味・関心を高める授業を展開する必要がある。

A 高等学校では，学力が全体的に低く，授業に参加しない生徒や授業に全く興味を持たない生徒，学校に登校しない生徒が見受けられる。座学の授業に対しての意識調査は4件法を用いて平均1.5と著しく低く，授業に対して消極的であることが分かる。授業を受けてもわからない，理解できないと答える生徒が1/3を占める中，必要性を感じていることから，興味・関心を高める授業がA高等学校において必要であると考えられる。A高等学校では特別支援教育の視点を踏まえた授業スタイルを導入しており，その中でICT機器など視覚的，映像的な授業を推進している。そこで，ICT機器を用いた授業が生徒の興味関心にどのような影響を与えるかを調査し，ICT機器を活用した授業の在り方を考案することを目的とする。

2 研究の計画

A高等学校においてICT機器を活用した保健授業を受けたことがない生徒計50名を対象にICT機器のみを活用した保健授業を継続的にを行い，事前事後のアンケートによる意識調査をもとにICT

機器を用いた授業が生徒の興味・関心をどのように高めているのかを調査し，ICT機器を用いた授業の在り方を考案する。

表 研究計画

M2前期 7月	事前アンケート
M2後期 9月～12月	授業実践
M2後期 12月	事後アンケート

3 研究の内容

(1) アンケートによる意識調査

A高等学校の1学年，計50名を対象に，4件法と自由記述を用いて保健授業やICT機器を用いた授業に対する意識調査を実施した。

(2) 本研究で活用したICT機器の工夫

A高等学校では，福岡県教育委員会（2019）が提示した授業の基本スタイル「シンプル・クリア・ビジュアル・シェア」という4つの基本姿勢を重視し，授業スタイルを定着させている。ビジュアルとは，「視覚的，映像的，かつ体験的な授業であり，ICT機器を活用した授業である。」と記載している。視覚的な授業を実践することで，画像を用いて授業に興味を持たせることや授業内容を明快にすることができると考える。また，映像を用いた授業を実践することで，具体的に内容を理解することができ，興味・関心を高めることができると考えられる。A高等学校では，ICT機器の普及が遅れており，タブレットや電子黒板を活用した授業が積極的に行われていない。そこで，電子黒板のみを活用し，スライドに動画や画像などを多く導入することで，ビジュアルの視覚的・映像的であり体験的な授業の実現を図った。

スライドでは，できるだけ文字を少なくすることや文字の大きさを統一化して，見やすくすることを重視して作成した。また，アニメーションを

活用し、スライドに動きを持たせ、視覚を刺激するようにした。他にも各スライドに関連する画像を用いて、文章で理解するのではなく、画像を見ることが文章の意味を理解できるように工夫を行った。学習プリントでは、穴埋め形式にすることで、多くの内容を書き写すことに対する嫌悪感を持たせないようにした。授業後半では、実際に授業で学んだことが自分たちの周りでどのような場面で用いられているかを動画にて提示し、自分自身の振り返りにつなげるように助言した。

(3) 授業の流れについて

ICT 機器を活用した授業では、生徒が身近に感じる内容を画像や動画にて提示し、生徒が興味・関心を持たせることを目的として行った。導入では、画像を提示し、画像をもとに発問を行うことで生徒が発言しやすいようにし、その授業に対して興味・関心を高めさせる手立てをとった。展開では、説明のスライドに文字だけではなく、学校に掲示されているポスターやその説明に該当する画像を用いて理解を深めさせた。また、授業の内容を生徒が身近に感じるように豆知識や関連する動画を提示することで再度授業に対して興味・関心を持続させた。終末では、授業に対しての振り返りを感想文として書かせた。

4 成果と課題

ICT 機器を活用した授業では、画像や動画を見せることで生徒からの反応があり、納得した様子であった。授業に積極的ではなかった生徒も動画視聴では真剣に視聴するなど生徒の興味・関心を喚起した。また、本時はどのような画像や動画があるのかなど授業前に興味・関心を示す生徒が見受けられた。これは授業を楽しみにしていることや座学授業に興味・関心を示す生徒が増えたのではないかと考えられる。

アンケート結果では、事前アンケートに比べ「保健の授業は好きですか」という内容は4件法で2.8から3.2へ上昇し、理解度も2.6から3.1へ上昇した。黒板とICT機器のどちらが分かりやすいかについては、事前アンケートではICT機器が3割に対して、最終アンケートでは8割以上ICT機器を活用した授業が分かりやすいと回答していた。これは、継続してICT機器を活用した授業を行ったことによるものだと考えられる。また、自由記述において、「イラストがあり想像することができる」や「文字が大きいこと、動画でより理解できる」などの回答があったことからICT機器を

活用することが生徒の理解を深め、授業に対して興味・関心をもったのではないかと考えられる。

「座学で楽しいと感じることはありますか」という事前アンケートでは、8割以上の生徒が否定的であったが、事後アンケートにおいて、「動画視聴」が楽しい、わかりやすいと感じる生徒が全体の50%以上を占めた。動画を視聴した前後では、生徒の発言回数が増加し、授業に積極的に参加した状況が見受けられた。このことより、動画を用いた授業は生徒が楽しいと感じる授業の手立ての一つであり、興味・関心を高めることができたと考えられる。

事後アンケートにて、「保健の授業は好きですか」という項目で否定的な意見を回答していた生徒が、自由記述では「ICT機器を活用した授業はわかりやすかった」と回答した例が見られた。ICT機器の活用により、保健の授業に積極的ではない生徒の意識を高めることができたとは一概に言えない。しかし、わかりやすい授業であるという認識があったことから、継続的にICT機器を活用した授業を行うことで授業に対して興味・関心を示し、積極的に授業に参加しようとするのではないかと考えられる。

本研究の実践において、生徒が学習プリントに板書を写すスピードの差が顕著に現れた。ICT機器のスライドは一過性であり、授業が進むにつれてスライドが変化していくため、黒板を見て授業の流れを再度理解することが難しいと考えられる。学習プリントに記入することができず途中で終わっていた生徒も見受け得られたことから、授業中に板書を写すスピードの差を補うために、黒板を併用し授業の足跡を残すことや文字数、時間配分を工夫する必要がある。

主な引用・参考文献

- 福岡県教育委員会 (2019) 特別支援教育コーディネーターガイド title (mext.go.jp)
- 文部科学省 (2019) 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 保健体育編 体育編
- 文部科学省 5. 児童生徒の発達の支援 (1) 発達段階を踏まえた指導の充実 ③高等学校
- https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/mext_01507.html